# 生乳の需給等に係る情報交換会（第１０回）議事概要

開催日時：令和７年６月 13 日（金）15:00～17:00
開催場所：対面・web 会議
出席者：別添参照
議事概要：

農林水産省から、資料に基づき、①生乳取扱量等の実績・見込み、②不需要期の生乳需給調整について説明し、それを踏まえた出席者からの意見の概要は以下のとおり。

## （１） 生乳取扱量等の実績・見込み

**【令和７年３月から６月の需給状況について】**

（ホクレン）生産量は、昨秋以降対前年２％超増加で推移。飲用向けは数量が持ち上がらず、加工は現在も高い水準。乳業と調整しながら処理を進めているが、６月中旬には行っても対応に苦慮している状況。

（サツラク）生産量は３月以降、対前年比 103%で推移。４月下旬にピークを迎えて以降緩やかに減少し、６月中下旬からはさらに落ちる見込み。飲用需要は変動が激しく販売方法で苦慮。生産量の増加分が加工向けの増加となっている。

（ちえのわ）生産量は、乳業との契約数量とほぼ同一。農家の牛舎が満杯なので、年間の生産量の変動は少ない。余乳は、練乳やバターに加工。

（MilkNet）生産量は、昨秋から今春にかけては前年対比で増加し、処理に苦戦。４・５月からは昨年より生産が低調だったことに加え、４月以降新規の取引先の契約が決まったこともあり、需給上の問題はない。

（ループライズ）生産量は、契約数量程度で推移した。

（しんじゅ）分娩のずれで今が生産のピーク。生産が増加した分の販売については、取引先に契約を超える数量を引き取ってもらう調整を行い対応した。

（やよい浜風）安定した数量で推移している。

（カネカ）取引先乳業の契約数量に合わせる形で推移。３～６月にかけて当初の契約との大きな差異なく進んでいる。

（MMJ）昨秋以降の強い余乳感が４月第１週まで継続したが、新年度から新たな販売先を確保したことで順調に販売。８月の値上げの影響も小さくないと見込まれるので備えが必要。

（東北販連）生産量は、昨年下期以降、前年を上回って推移。６月に入っても加工施設がフル稼働。飲用需要が前年より弱まり、加工仕向け量が増加した。

（関東販連）生産量は例年４月中下旬がピークだが、今年はピークアウトしてもそれほど生産が落ちていない。飲用需要は低調な状態。その結果、需給調整が厳しい状態が続いている。

（北陸酪連）３～５月は対前年比 98%前後で推移。域内に有力な加工施設がないが、生産の伸び悩みにより結果的に想定どおりの需給状況となった。

（東海酪連）生産量は対前年比 98～99%だが、飲用需要は 95～96%のため、

加工向けが増加。関東で加工処理しきれず、九州に運んだ。今年は５月下旬～６月に入っても九州送りが続いている。
（近畿販連）生産量も飲用需要も前年並みだが、近畿から九州に数台加工向けで搬出する状況が発生した。
（中国販連）３～６月の生産量は対前年比 99%後半で推移。飲用向けは対前年比 97%後半～98%前半。加工仕向けは対前年比 105～115%で九州に送った。
（四国販連）３～６月の生産量は対前年比 98～101%。３月の飲用向けは対前年比 97%と低迷したが、４・５月の飲用需要は対前年比 100%と底を打ったような感じ。加工向けは四国や九州の加工施設で最大限処理した。
（九州販連）生産状況は３～６月にかけてなだらかに減少。飲用仕向けも対前年比 97～98%と低迷。例年はＧＷ明けに加工処理も落ち着いてくるのだが、６月に入っても他ブロックから加工向けが入ってくる厳しい状況。
（沖縄県酪）３～６月の生産量は 92～97%で推移。飲用需要は他県産との競合により低下。これにより、県内・外でこれまでにない余乳処理対応を行った。

**【今年の年末年始から年度末の状況について】**
（ホクレン）８月の値上げによる消費減退も想定して準備を進めていくべきと認識。不需要期に向けて何ができるか、夏以降、乳業としっかり相談していきたい。
（サツラク）飲用需要は、８月の値上げによって消費動向がどうなるか、乳業メーカーの対策次第で幅が出てくる。
（ちえのわ）生産と契約数量はほぼ同一で例年推移。12 月末日は工場が止まるので、その対策のためにバターや練乳などの加工を契約している。
（MilkNet）冬場に加工に一部回せないか乳業メーカーと協議しているほか、スーパーと秋以降の新商品などの協議を進めているところ。
（ループライズ）昨夏と比べて今夏はそこまで分娩のずれはないため、11 月以降も大幅な生産量の増加はないと予測。
（しんじゅ）11 月以降の生産量は暑さ次第。例年１月以降乳量が増えてくるので、余乳の販売方法を検討中。
（やよい浜風）組合員間で分娩がばらけているので大きな変動はない見込み。
（カネカ）契約数量に対して大きな差異なく進む見込み。仮に年末年始に加工が必要になった場合には自社工場でバターを作るなど計画している。
（MMJ）今秋以降も相当量の余乳が出る見込み。ただ、昨年よりは少なくなると予測。例年通り加工することに加え、新たに輸出の取組を強化していくなど、様々な方法を駆使して需給調整に臨んでいく。
（東北販連）夏場の猛暑次第だが下期の生産は前年比 100%を下回る見込み。８月の値上げがどのように飲用需要に影響するか読みづらい。不需要コア期の処理能力が落ちている中で、厳しい状況になることを懸念。昨年度実施した生乳使用率を上げた製品販売や酪農理解醸成等を今年も検討したい。
（関東販連）域内の加工処理能力は前年度よりも低下。不測の事態が起きた場合の対応を含め、需給状況は定期的に生産者に伝えたい。

（北陸酪連）頭数維持が出来ず、生産が減少すること見込み。年末・年度末にどのぐらい努力することになるかは９･10 月の需給状況をみて検討したい。
（東海酪連）生産が伸びるとは言い切れない状況だが、飲用需要が落ちれば加工が昨年以上となり得る。九州送りが出るのは辛いところ。
（近畿販連）生産見込みはよくて前年並み。飲用需要は８月の値上げ次第で今のところ何とも言えない。
（中国販連）年度後半の生産はＪミルクの予測よりは上振れの見込み。飲用需要も値上げの影響がどのように出るか見極めが大事。夏頃から年末の対応について検討する必要がある。
（四国販連）値上げの影響もあり、需給状況は悪くなると予測している。不需要期に最大限処理することを加工メーカーとは確認した。
（九州販連）今年度末・GW の状況を基に加工施設と打合せを行い、不需要期の対応方針を検討する予定。平成 16～21 年の計画生産時のような危機感を持っておく必要。系統内外の需給調整の協調も必要。
（沖縄県酪）生産は対前年比ほぼ 100%達成見込み。冬休みは余剰乳の発生が懸念される。

**（２）不需要期の生乳需給調整機能の強化**

（ホクレン）大手乳業の工場投資計画もあり、永続的な生乳取引について協議を進めていく。
（関東販連）即効性のある需要対策として、個別乳業で生乳使用率を高める方法もある。需要の底上げに向けて、５～１０年後を見据え輸出や統一ブランドなどの取組やその財源確保について協議するべきではないか。
（九州販連）年度末からの加工の要望の増加により加工施設も危機感を持ってきている。生乳生産が減少する中、施設を維持するために必要な協議を行い、方向性を示して対応できるようにしていきたい。
（MMJ）需給調整の方法の一つとして輸出を強化する。輸出先エリアを拡大する予定。日本の牛乳にプレミアムを感じてもらえるようなプロモーション活動が重要。
（中国販連）缶コーヒーを作っている工場に、不需要コア期に生乳を使った製品製造を委託するなど、脱脂粉乳・バター以外の短期的な処理能力向上についても検討してはどうか。

以上